

第101回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成23年12月15日(木) 9:23~10:00

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	野田 佳彦	内閣総理大臣
議員	藤村 修	内閣官房長官
同	古川 元久	科学技術政策担当大臣
同	川端 達夫	総務大臣
同	安住 淳	財務大臣
同	中川 正春	文部科学大臣
同	相澤 益男	常勤(元東京工業大学学長)
同	本庶 佑	常勤(京都大学客員教授)
同	奥村 直樹	常勤(元新日本製鐵(株)代表取締役副社長、技術開発本部長)
同	白石 隆	非常勤(政策研究大学院大学教授)
同	中鉢 良治	非常勤(ソニー株式会社取締役代表執行役副会長)
同	大西 隆	非常勤(日本学術会議会長)
臨時議員	鹿野 道彦	農林水産大臣(代理 岩本 司 農林水産副大臣)
	石田 勝之	内閣府副大臣
	北神 圭朗	経済産業大臣政務官
	大串 博志	内閣府大臣政務官

(議題)

1. 開会

2. 議事

(1) 平成24年度科学技術関係予算の重点化(アクションプラン、重点施策パッケージ)について(報告)

(2) 国家的に重要な研究開発の評価について(決定)

- (3) 平成24年度科学技術関係予算の編成に向けて（決定・意見具申）
- (4) 科学技術イノベーション政策推進のための有識者研究会の検討状況について（報告・検討）
- (5) 最近の科学技術動向について（最新事例紹介）
- (6) その他

3. 配布資料

- 資料1-1 平成24年度科学技術関係予算の重点化について
- 資料1-2 平成24年度アクションプラン対象施策の概算要求内容の精査結果について
- 資料1-3 平成24年度 科学技術関係予算 重点施策パッケージの特定について
- 資料2-1 平成24年度予算要求に係る国家的に重要な研究開発の評価
大規模新規研究開発の評価結果（案）の概要
- 資料2-2 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価
「日本海溝海底地震津波観測網の整備及び緊急津波速報（仮称）に係るシステム開発」の評価結果（案）
- 資料2-3 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価
「超低消費電力型光エレクトロニクス実装システム技術開発」の評価結果（案）
- 資料2-4 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価
「高効率ガスタービン技術実証事業費補助金」の評価結果（案）
- 資料2-5 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価
「石炭ガス化燃料電池複合発電実証事業費補助金」の評価結果（案）
- 資料3-1 平成24年度科学技術関係予算の編成に向けて（概要）
- 資料3-2 平成24年度科学技術関係予算の編成に向けて（案）
- 資料4 科学技術イノベーション政策推進のための有識者研究会の検討状況について
- 資料5 最近の科学技術動向について（最新事例紹介）
臓器移植から臓器再生へ～アクションプラン「再生医療研究開発」～
- 資料6 第100回総合科学技術会議議事録（案）

「総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価」及び「平成24年度科学技術関係予算の編成に向けて」について原案どおり決定し、「研究開発の評価結果」については

総合科学技術会議から関係大臣へ通知し、「予算の編成に向けて」については総合科学技術会議から内閣総理大臣及び関係大臣に対し意見具申することとした。

「科学技術イノベーション政策推進のための有識者研究会の検討状況」について報告の後、意見交換が行われた。

最近の科学技術動向について、「臓器移植から臓器再生へ～アクションプラン「再生医療研究開発」～」というテーマで本席議員より報告された。

議題（４）に関する各議員の発言は以下のとおり。

【北神経済産業大臣政務官】

大臣が出張中なので私から御意見を申し上げたい。１点目は司令塔の話。是非強力な司令塔を作っていただきたい。私も初めて関わらせていただいたが、経済産業省を含めてどうしても縦割りの予算要求になってしまっている。是非そこを十分な準備期間の中で集約できるような司令塔を作っていただきたい。もう１つは予算配分に、これは非常に難しい問題かもしれないが、皆さんに総合的な見地から判断いただいたことを実際の予算配分に反映させるところの実効性の部分を是非取り入れていただきたいと思う。

もう１点。顧問制度だが、新しく本部を設置して、各省もそれぞれ研究開発について推進していく。だから言いたいことは、屋上屋というか輻輳的なものになるというのはいかがなものか。できるだけ簡素なものにしたほうがいいのではないかと思う。

【中川文部科学大臣】

先ほど報告されました素案のポイントについては、この方向性を私は強烈に支持したい。特に先ほど顧問制度のお話が出たが、海外の状況を見ていても総合的に打ち出そうということになると、こうした形で下からの積み上げではなく、戦略性を持った打ち出し方が必要なだけに、これを是非有効に活用していってほしいと思う。

その上で研究開発法人だが、私も苦慮している。行政刷新会議の議論はまだ形というか入口議論で終始している。中身に入って行って科学技術の特性というか、現場が思い切って活動できるような体制に国際的競争の中でも持っていくということが必要だと思う。そういう意味では早急に中身の議論を是非していきたいと思っており、その場をまた作っていただければと思う。

【川端総務大臣】

体制自体はこういう国の意思を持ってということは極めて大事なことであって、是非ともお願いしたいと思う。その中で執行体制の中の1つとして、今文科大臣が言われたような研究独法の在り方をガバナンスとかお金の使い方というトータルの仕組みとして行政刷新会議でやられるというのは、そういうガバナビリティの自立というのは当然のことだが、世界の第一線でしを削って、そこでアドバンテージを持ってやっていくことのフィールドにおいては違う位置付けの独法でないといけないというか、自由にやれることがどうしても必要だということ。

行政刷新会議の本部の会合でも申し上げたが、その中で行政刷新会議としてはいわゆる独法の在り方をいろいろ御議論されるとき、総理からも頭脳集団であるこのコントロールセンターとの関係、それから実行部隊の手足という部分でいったら頭脳をしっかり議論してやってほしいという御指摘もあった。そういう部分でこの頭脳の話が出てきたとき、その手足の研究独法はどうあるべきかは、まさに頭脳に密接に関連する話。是非ともに古川大臣の下で、私は総務大臣としての発言ではなくてOBの発言になってしまっているが、当時、古川副大臣と鈴木副大臣でまとめていただいた方向性というものは既にある。是非ともその部分で整合性をとりながらではあるが、しっかりやっていただきたい。御要望申し上げます。

【安住財務大臣】

今、予算編成の真っ最中である。御存じのような厳しい財政状況の中で、しかしこの提言があるので、できるだけ反映させるように。しかし、更なる重点化は必要になってくると思うが、そこはしっかり取り組んでいただきたいということをまず申し上げたい。

その上で目下の状況の中でこの研究開発法人のことも検討されている。行政刷新会議の中でしっかりと位置付けさせていただかなければいけない部分は、そうは言っても私はあると思っている。近々また出てくると思うが、公益法人への再就職等非常に大きな問題を個々には抱えている。いずれ指摘はさせていただく。

科学技術イノベーションの重要性は十分分かる。しかし、国民の検証に耐えられるものにするということから言えば、行政刷新会議の中できちっと位置付けられて、みんなから歓迎されて出ていく法人であれば良いが、そういう点では重要性は十分認識しつつも、全体の官の肥大化になるということについては私の立場でいうと国民の厳しい批判の目は相当あるであろう。この分野が重要なことは国民みんなよく分かっているのだから、そういうことを勘案しながら行政刷新会議の中での位置付けというものをしっかりやっていって、その中で位置付けをしっかりと

つけた上で考えるべきであるということだけ申し上げさせていただく。

【古川科学技術政策担当大臣】

今、様々な方からいただいた意見も踏まえて、また今度取りまとめる研究会の報告書も踏まえて司令塔の在り方、研究開発独法の在り方についても検討してまいりたいと思うので、御協力をよろしくお願い申し上げます。

(プレス入室)

【野田総理大臣】

今日も議員の皆様におかれましては活発な御議論をいただき、御礼申し上げます。最後に本席議員からiPS細胞等の研究について御紹介をいただいた。ちょうど昨日飲みすぎて肝臓が心配になっており、これは本当に画期的だなと改めて思っている。我が国の研究が正しくフロンティアを切り拓いていくという意味で実例として大いに意を強くした次第である。

このような成果が次々と生まれて、多岐にわたるフロンティアを切り拓いていくことが、我が国が直面する諸課題を克服し、日本再生を進める上で極めて重要であると思う。そのためには国家財政が厳しい中ではあるが、本日御議論いただいた平成24年度の科学技術関係予算の編成に向けた意見具申を十分に踏まえて、安住大臣におかれてはメリハリの利いた予算編成にあたっていただきたい。

また、総合科学技術会議の改組についての有識者研究会での検討状況についても御報告をいただいた。近く取りまとめられる最終報告を踏まえ、科学技術イノベーション推進のためにふさわしい体制を構築してまいりたい。真に日本を再生することは日本人がこの国に生れて良かったと思える希望と誇りのある日本を取り戻すことであると思う。そのためにも多岐の分野にわたるフロンティアを切り拓いていくことが不可欠であり、科学技術イノベーション政策を更に強力に進めていきたいと考えている。

【古川科学技術政策担当大臣】

以上で会議を終了する。

なお、前回の議事録と本日の資料は公表させて頂く。